

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Models Predicting the Prognosis of Elderly Patients with Heart Failure Complicated by Pre-frailty and Frailty: A Pilot Prospective Cohort Study	共著	In press	Hong Kong Med J.	高齢心不全患者のプレフレイルおよびフレイルの予後を予測するモデルを CART 手法を用いて開発することを目的とした。我々の結果は、入院中のプレフレイルやフレイルの改善を予測するのは入院時の条件であるが、入院時の条件が悪くても、片脚立位時間を改善する心臓リハビリテーションによりフレイルを改善できる可能性があることが示唆された。 (Umehara T , Katayama N, Kaneguchi A, Iwamoto Y, Tsunematsu M, Kakehashi M)
2 (学術論文) Physical functions and comorbidity affecting collapse at 4 or more weeks after admission in patients with osteoporotic vertebral fractures -A prospective cohort study-	共著	In press	Asian Spine J.	本研究は、骨粗鬆症性脊椎椎体骨折患者の4週以降の脊椎椎体の圧壊に影響する因子について検討した。我々の結果は、骨粗鬆症性椎体骨折患者において、身体機能と併存疾患が入院後4週間以上の時点で椎体圧壊に影響を与えることを示した。 (Umehara T , Inukai A, Kuwahara D, Kaneyashiki R, Kaneguchi A, Tsunematsu M, Kakehashi M)
3 (学術論文) Factors Affecting Quality of Life at Discharge among Patients with Osteoporotic Vertebral Fractures	共著	2021年4月	South Med J. 114: 252-259	本研究では、骨粗鬆症性椎体骨折患者の退院時の QOL に影響する因子を明らかにすることを目的とした。今回の結果から、入院時に骨密度が高く、強い痛みがあり、認知機能が低い患者は、退院時の QOL が低いことが予測される。しかし、入院後4週間の間に痛みの緩和と膝伸展筋力を改善することで、退院時の QOL を改善できる可能性がある。 (Umehara T , Inukai A, Kuwahara D, Kaneyashiki R, Kaneguchi A, Tsunematsu M, Kakehashi M)
4 (学術論文) Association between movement control during one-leg standing and femoral BMD in patients with hip fractures	共著	2021年1月	J Bone Miner Metab. 39: 474-483	本研究の目的は、大腿骨近位部骨折患者における非骨折側の片脚立位の姿勢制御が大腿骨 BMD に影響を及ぼすかどうか調査することであった。我々の結果、片脚立位の姿勢制御は、年齢、性別および BMI から独立して大腿骨近位部 BMD に有意な影響を及ぼす因子であることを明らかにした。 (Umehara T , Kaneguchi A, Watanabe K, Inukai A, Kuwahara D, Kaneyashiki R, Mizuno N, Iwamoto Y, Kito N, Kakehashi M)
5 (学術論文) Efficient predictors for the decline of activities of daily living in patients with hip fracture 1 year after surgery-Multicenter prospective cohort study-	共著	2020年3月	J Back Musculoskelet Rehabil. 33: 553-560	大腿骨近位部骨折患者の術後1年の ADL に影響を及ぼす身体機能のおよび歩行能力を調べ、ADL 低下を予測するためのカットオフ値を算出する。結果として、術後2週の CS30 (0回) および術後3週の歩行自立度 (5点以下) が1年後の ADL 低下を予測できる可能性が示唆された。 (Umehara T , Tanaka R, Nagao S, Tomiyama D, Kawabata Y, Nagano Y, Takeuchi Y, Kakehashi M)
6 (学術論文) Factors affecting hospital readmission heart failure in Japan: a multicenter retrospective cohort study	共著	2020年3月	Heart and Vessels. 35: 367-375	高齢心不全患者の再入院に影響を与える要因を検討した。結果としては、慢性腎機能障害、認知症、HFrEF、退院時独歩、退院時杖歩行のものが有意に関連していた。 (Umehara T , Katayama N, Tsunematsu M, Kakehashi M)